

学部 / 看護専門領域 / 看護援助の方法

科目コード : 130032

老年看護方法論演習 Practice:Gerontological Nursing

担当教員	中道淳子、磯光江、川島和代				
実務経験					
開講年次	3年次前期	単位数	1	授業形態	講義・演習
必修・選択	必修	時間数	30		
Keywords	フィジカルアセスメント、看護過程、看護技術				
学習目的・目標	目的： 紙上事例から、老年期に起こり易い健康問題のアセスメント、看護援助計画・立案の知識・技術を習得し、看護過程を展開できる能力を養う。 目標： 1.ヘルスケア・アセスメントの技法について習得する。 2.紙上事例中に提示された事実から、看護に必要な事実を選び出し、部分的・断片的な情報の意味を考え関連づけて、対象であるその人全体の中に位置づけることができる。 3.高齢者が健康的に生きていくための視点をもって、看護の方向性・援助計画を立案できる。 4.対象にあわせたケアの手順書を作成することができる。				
授業計画・内容					
	内容				
1-2	ガイダンス 【演習1】高齢者のフィジカルアセスメントの実際（学内演習）				
3-6	【演習2】高齢者のフィジカルアセスメントの実際（高松老人福祉センター） 【演習3】擬似高齢者体験				
7-8	老年看護学における看護過程の展開 【演習4】看護過程の展開（グループワーク）脳血管障害による片麻痺の高齢者への看護事例提示・情報の整理、病態の押さえ、全体像看護の方向性、看護計画立案				
9-10	看護過程の展開（グループワーク）発表・全体討議・まとめ 【演習5・6・7】ケア計画の立案・手順書の書き方				
11-12	【演習5】運動機能障害・排泄機能障害 【演習6】消化機能障害				
13-14	【演習7】口腔ケア				
15	老年看護学における看護技術				
教科書	水谷信子他編、最新 老年看護学、第3版、日本看護協会出版会、2018.				
参考図書等	金川克子監修：最新高齢者看護プラクティス 疾病・障害をもつ高齢者の看護、初版、中央法規出版、2005.				
評価指標	演習の課題レポート（70%）、事例のグループワーク（30%）				
関連科目	老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ、老年看護実習				
教員から学生へのメッセージ	高齢者への看護援助技術を展開することは、自立と依存の関係に目を向けることです。この単元を習得し、自分の知識と関心を高齢者に表現する技として身につけて下さい。				